

第18回日本集団災害医学会総会・学術集会、災害保健医療マニュアルに関する連絡会議に参加しました(2013/1/19)

場所：神戸市国際会議場

テーマ：「1.17 から 3.11～何を学びどう備えるか～」

1月17(木) - 19日(土)に神戸市で開催された第18回日本集団災害医学会学術集会に参加しました。阪神・淡路大震災から18年、東日本大震災からまもなく2年の今回は、医師、看護師、保健師、消防、自衛隊、ロジスティクス関係者など過去最多1,400名以上の参加がありました。

阪神・淡路大震災の教訓を得て、東日本大震災への対応をふりかえり、きたるべき大災害に備えることを基調とし、演題数も440題と過去最高の応募数でした。1月17日のシンポジウムでは「巨大広域災害への備え」が討議されました。同日放映されたNHKスペシャルでも巨大広域災害にどう備えるか特集されていました。

特別講演に登壇した、気仙沼市大島を支援した米国海兵隊 Robert Eldridge 先生によるトモダチ作戦の全貌は迫力ある内容に関心も高く、保健医療に関する国際支援の受け方や、米軍、自衛隊との共同行動も大きな変革点を迎えていることが示されました。市民公開フォーラム「保険・健康危機問題に対する国際協力」では、国連組織による人道支援の基本方針とクラスターによる体系的支援、わが国の受援力の国際比較などがわかりやすく提示されました。「1.17 から 3.11」では東北大学病院救命救急センターの久志本成樹教授が急性期の保険医療ニーズが時間とともに推移する詳細を提示しました。

会期中には、大規模災害時の災害保健医療活動を机上でリアルタイムにシミュレーションを行うエマルゴセミナーが開催され、さまざまな職種が数名ずつ15のステーションに分かれて参加するとともに活気あふれる参加型セミナーでした。

東北大学名誉教授上原鳴夫先生を含む同学会の災害マニュアル委員会と、当研究所災害医学研究部門の呼びかけにより、DMAT、JMTDR、看護協会、衛生部長会、保健所長会、保健師会、こころの情報支援センター、国立保健医療科学院、プライマリケア連合学会、日本赤十字社などが一堂に会し、災害保健医療マニュアル作成のための連絡会議が開催されました。災害のときに必要な情報をワンストップで共有できるように関係各団体が協力してマニュアルづくりをすすめることが合意されました。すべての保険医療、救命、人道支援に関わる人々が連携しながら、わかりやすい情報ステーションを公的なサイトに形成していく予定です。



エマルゴセミナー



緊急医療支援テント・車両展示

文責：江川新一（災害医学研究部門）